

## (7) かき

時期	対象病害虫	防除法	注意事項
12月～2月 (休眠期)	黒星病 落葉病 カキノヘタムシガ コナカイガラムシ類	・落葉及びバンド処理 ・粗皮削り	○ バンドをはずし、落葉と共に埋没する。 ○ 落葉病の多発園では、落葉処理を徹底して行う。 ○ 枝幹害虫類の少ない場合は、粗皮削りはこの時期でよい。 ○ マイマイガの卵塊は除去する。
	カイガラムシ	・マシン油乳剤(95%)	○ カイガラムシ類の少ない園では省いてもよい。 ○ マシン油乳剤(95%)には、95マシン、スケルシン95、トモノール、マシン油乳剤95、機械油乳剤95、高度マシン95がある。
3月中旬～下旬 (発芽直前)	黒星病 うどんこ病	・石灰硫黄合剤	
4月下旬 (展葉期)	うどんこ病	・水和硫黄剤	○ 水和硫黄剤には、コロナフロアブル、クムラス、イオウフロアブル、サルファーゾルがある。
	ハマキムシ類 フジコナカイガラムシ	・スミチオン乳剤	○ ハマキムシ類の防除には、ヨーバルフロアブルを散布する。
	チャノキイロアザミウマ	・ベストガード水溶剤	
5月中旬 (開花直前)	黒星病 落葉病 炭疽病	・ジマンダイセン水和剤	○ マイマイガなどが発生した園では、トクチオン乳剤を使用する。
	アザミウマ類 カイガラムシ類	・モスピラン顆粒水溶剤	
	ヒメコスカシバ	・スカシバコンLの設置	○ 共通防除の章の性フェロモン剤による害虫防除の項を参照する。
6月上旬～中旬 (生理落花期)	落葉病 炭疽病 うどんこ病	・ベルコート水和剤 又はチオノックフロアブル	○ 落葉病は連続降雨後に多発するので、この時期の防除を徹底する。 ○ うどんこ病の多い園では水和硫黄剤(イオウフロアブル、サルファーゾル)を散布する。
	カキノヘタムシガ	・サムコルフロアブル10 又はコテツフロアブル 又はノーモルト乳剤	○ ベルコートは西村早生には葉害(葉の葉斑)を生じるので使用せず、チオノックフロアブルを用いる。
6月下旬 (幼果期)	落葉病 炭疽病 うどんこ病	・ベルコート水和剤 又はスクレアフロアブル	○ ベルコートは西村早生には葉害を生じるので使用せず、ラビライト水和剤を用いる。 ○ カキノキマダラメイガの防除のため、高接部分や枝の分岐部にも十分散布する。
	カキノキマダラメイガ チャノキイロアザミウマ	・パダンSG水溶剤	○ フジコナカイガラムシの多い園では、アドマイヤー顆粒水和剤を使用する。
7月上旬～下旬	炭疽病 落葉病 うどんこ病	・有機銅水和剤(フロアブル) 又はインダーフロアブル	○ かきに登録のある有機銅水和剤には「キノンドーフロアブル」、「ドクリンフロアブル」がある。 ○ 炭疽病、落葉病の防除にオーソサイド水和剤80を使用してもよい。
	カキノヘタムシガ チャノキイロアザミウマ	・パダンSG水溶剤 又はダントツ水溶剤	○ カキノソガ、ミノムシが多い場合はスミチオン乳剤を使用する。早生品種では収穫前使用日数に注意する。
8月中旬	カキノヘタムシガ	・バリアード顆粒水和剤	

時期	対象病害虫	防除法	注意事項
8月下旬 ～ 9月上旬	うどんこ病 落葉病 炭疽病	・トップジンM水和剤 又は有機銅水和剤(フロアブル) 又はファンタジスタ顆粒水和剤	○ カメムシ類が多い場合はテルスターフロアブル又はアーデント水和剤又はスカウトフロアブルを散布する。
9月上旬 ～中旬	カキノヘタムシガ フジコナカイガラムシ	・バンド誘殺開始	○ カキノヘタムシガの被害果は埋没する。
11月上旬 (落葉直後)	カキノキマダラメイガ ヒメコスカシバ	・粗皮削り ・枝幹保護剤塗布	○ 伊豆では枝幹害虫類による被害が多いので、落葉直後に粗皮を削り幼虫を捕殺する。その後、枝幹保護剤(水溶性ペイントなど)を塗布しておく。

注)成園 10a 当たりの散布量は樹の大きさに応じ 300～500ℓとする。

### 農薬登録情報（農薬名順）

- [殺菌剤](#)
- [殺虫剤](#)
- [展着剤及びフェロモン剤](#)

### 農薬登録情報（RACコード順）

- [殺菌剤](#)
- [殺虫剤](#)
- [展着剤及びフェロモン剤](#)